

関東第一高等学校は、大正 14 年の創立以来、「知育・徳育・体育」を建学の精神とし、長年にわたり多様な生徒に対する教育活動を展開してまいりました。時代の変化とともに、教育のあり方も大きく変容する中、私たちは、全日制には無い、より柔軟で個別性の高い学びを求める声に応えるべく、通信制課程の設置を企画いたしました。

このたび、学校法人守屋育英学園は、長野県内に通信制課程の関東第一佐久穂高等学校と面接指導等実施施設、東京都江戸川区に面接指導等実施施設を新設し、東京都江戸川区の関東第一高等学校を協力校とし、それぞれの地域に生じている様々な問題に対し、どちらの問題も解決できる新たな学びの場を提案いたしたく準備を進めております。本趣意書は、通信制高等学校設置の目的と教育実践内容についてご理解いただくことを目的としております。

実施校	： 関東第一高等学校林間学校施設 八千穂山荘 長野県南佐久郡佐久穂町大字八郡 2049 番地 315
長野県面接指導等実施施設	： 長野県飯田市中央通り 4 丁目 10 番地
東京都江戸川区面接指導等実施施設	： 東京シュレー江戸川小学校 東京都江戸川区西小岩 2-4-1
協力校	： 関東第一高等学校 東京都江戸川区松島 2-10-11

1. 設置の目的

本校は、長野県佐久穂町施設において 62 年間、林間学校を実施してきました。林間学校を実施・運営する過程において、生徒たちが豊かな自然環境で行うハイキングや身体活動を行う中、学校の校舎では見られない人間関係で学び、成長する姿を目にしてきました。この環境において、生徒達が東京の校舎内ではできない多くの学びを得ることを実感し、長野県だからこそできる教育活動があると考えています。

近年、全国的に不登校の生徒数は増加傾向ですが、本校においては生徒を対象にしたアセスメント調査や組織一丸となり取り組む支援委員会の仕組みなどを導入し積極的に不登校支援を行い、不登校傾向のある生徒の内約 84%が、支援後には通学・登校型の学校生活へと戻っています。

長野県でも、小中学校における不登校児童生徒数は令和 5 年度 7,060 人（前年比+1,325 人）と急激に増加しており、うち中学 3 年生は 1,520 人です。また、令和 6 年度長野県の県立・私立通信制高校へ進学者数は 1,000 人を超えており、不登校の中学 3 年生の多くが通信制高校に進学したと考えられます。長野県の高校中途退学者数は、500 人前後で推移していますが、県内の通信制高校への需要は高まっていると推察されます。

そこで本校では、これまでの本校が培った不登校支援の活動内容を、林間学校で得た学びをさらに発展させる形で、長野県内の不登校に悩む生徒への学習機会の一助になればと考え、長野県での実施校と面接指導等実施施設の設置を企画いたしました。

全学年が在学中に一度以上は長野県の本校を訪れることとする一方で、面接指導等実施施設の設置場所につきましては、生徒の利便性にも配慮し長野県飯田市と東京都江戸川区に設置します。長野県の生徒と東京都の生徒の、相互コミュニケーションによる学びを実践します。

なお、飯田市内の面接指導等実施施設の選択肢を増やすことも狙いとして飯田市周辺地域（下伊那郡）においてはスクールバスを運行し、通学交通手段が乏しいこの地域の生徒の利便性を確保します。

また、佐久穂町実施校においてもスクールバスを運行し、この地域の生徒の通学利便性を確保します。

2. 教育実践内容

新設する通信制高校とその他の学校・施設では、本校の全日制で実践している「不登校支援」と「探究活動」、「ICTを活用した先進的な教育環境」を導入し、通信制課程においても「自己肯定感及び自己効力感の養成」「人間関係力の回復」「地元社会に貢献する力」を養成する教育を実践します。

・不登校・中途退学者への支援

全日制にて実践し成果を上げている支援室・カウンセラー・担任・保護者・医療機関の連携による支援体制を長野県の通信制にも導入し、不登校生徒問題に取り組みます。

1. 全員に心理検査を実施し、問題を抱える生徒への面談を経て支援方法をコーディネーターがまとめる
2. 問題生徒に支援方法をバーチャルクラスルーム、オンライン相談、直接相談から選択させる
3. コーディネーターから担任、保護者、医療機関に発信し、支援体制を固め、生徒が学びに向かう姿勢を育てる

・ICTを活用した先進的な教育環境

Google for Education や Chromebook 等の ICT ツールを活用し、面接指導等実施施設に通学できない生徒も含め、すべての生徒が主体的な学習や創造性を育む教育を受講できるようにします。

対人関係が苦手で他の人との共同作業が消極的な生徒には、まずは自宅でのアバターを導入したオンライン学習から始め、オンライン学習の中から対人関係や共同作業に慣れていく訓練を行い、面接指導等実施施設に通学できるように支援を進めていきます。

・探究活動(総合的な探究の時間)による社会への関心の育成

1. 地元企業に対し企業リサーチを行い、各社の理念や目指す方向性を知る
2. 企業の求めるミッションに対する回答をチームで考える体験を行う
3. 地元産業体験と後継者の育成をする

必須科目の探究活動を今般の教育課程企画特別部会の審議も踏まえながら、より発展、充実させる形で、本校独自に後継者が不足する林業従事者や農業従事者、伝統産業等の職人について「探究学習」の中で学び、体験活動を通して視野を広げることができるような仕組みを作っていきます。

また、対人関係が苦手な生徒は、自身の興味やこだわりをとことん掘り下げる活動から入り、そこから地元職種のうち、一人で集中して従事できる仕事の担い手としての可能性を探る取り組みにつなげることができれば、とも考えております。

さらに、農林業や伝統産業等に従事している若年層の方に対しても、働きながら学べる仕組みづくりに取り組んでいきます。この活動により、地元企業や地元産業への関心や社会参加の意識を育成します。

3. 教育課程

通信制教育課程表											
教科	科目	標準 単位	1年			2年		3年		面接指導回数	レポート回数
			必修	必修選択	選択	必修	選択	必修	選択		
国語	現代の国語	2	2							2	6
	言語文化	2	2							2	6
	論理国語	4					4			4	12
	文学国語	4							4	4	12
	古典探究	4					4			4	12
地理歴史	歴史総合	2	2							2	6
	地理総合	2				2				2	6
	世界史探究	3							3	3	9
	日本史探究	3							3	3	9
	地理探究	3							3	3	9
公民 数学	公共	2				2				2	6
	数学Ⅰ	3	3							3	9
	数学Ⅱ	4					4			4	12
	数学Ⅲ	3							3	3	9
	数学A	2			2					2	6
	数学B	2					2			2	6
	数学C	2							2	2	6
	科学と人間生活	2		※a.2						8	6
理科	物理基礎	2		※b.2						8	6
	物理	4							4	16	12
	化学基礎	2		※c.2						8	6
	化学	4							4	16	12
	生物基礎	2		※d.2						8	6
	生物	4							4	16	12
保健体育	体育Ⅰ	7~8	2							10	2
	体育Ⅱ					2				10	2
	体育Ⅲ							3		15	3
	保健Ⅰ	2	1							1	3
	保健Ⅱ					1				1	3
芸術	美術Ⅰ	2		2						8	6
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3							12	9
	英語コミュニケーションⅡ	4					4			16	12
	英語コミュニケーションⅢ	4							4	16	12
	論理・表現Ⅰ	2			3					12	9
	論理・表現Ⅱ	2					2			8	6
	論理・表現Ⅲ	2							2	8	6
	家庭基礎	2				2				4	4
家庭 情報	情報Ⅰ	2	2							4	4
	情報Ⅱ	2							2	4	4
学校設定	社会演習	2							2	2	2
	数学演習	2							2	2	2
	英語演習	2							2	2	2
	総合的な探究の時間ⅠA	3~6		※e.1						1	1
	総合的な探究の時間ⅠB			※f.2						2	2
	総合的な探究の時間ⅡA					※g.1				1	1
	総合的な探究の時間ⅡB					※h.2				2	2
	総合的な探究の時間ⅢA							※i.1		1	1
	総合的な探究の時間ⅢB							※j.2		2	2
履修単位数			17	7~10	0~5	10~11	0~20	4~5	0~44		
			24~32			10~31		4~49			
卒業単位数			74								
※aとb,c,dより一科目選択または、b,c,dより三科目選択					※e,fより一科目選択						
※g,hより一科目選択			※i,jより一科目選択								

本校は、変化する時代の中で、画一的な教育を打破し、すべての生徒が「自分らしく生きる力」を育むための学びの場を提供すべく、全力を尽くしてまいります。関係各位におかれましては、本趣意にご理解とご賛同を賜りたく、ここに謹んで設置趣意書をご提出いたします。

以上